演習問題

問１　オーバーデンチャーの目的はどれか。

- ａ　歯髄の保護
- ｂ　義歯破折の防止
- ｃ　歯根膜感覚の保持
- ｄ　支台歯の自浄性向上

問２　部分床義歯の支台装置で支台歯の連結が不可欠なのはどれか。

- a　バーアタッチメント
- b　根面アタッチメント
- c　歯冠内アタッチメント
- d　歯冠外アタッチメント

問３　リラインの目的はどれか。

- a　適合性の回復
- b　咬合の再構成
- c　人工歯の交換
- d　審美性の改善

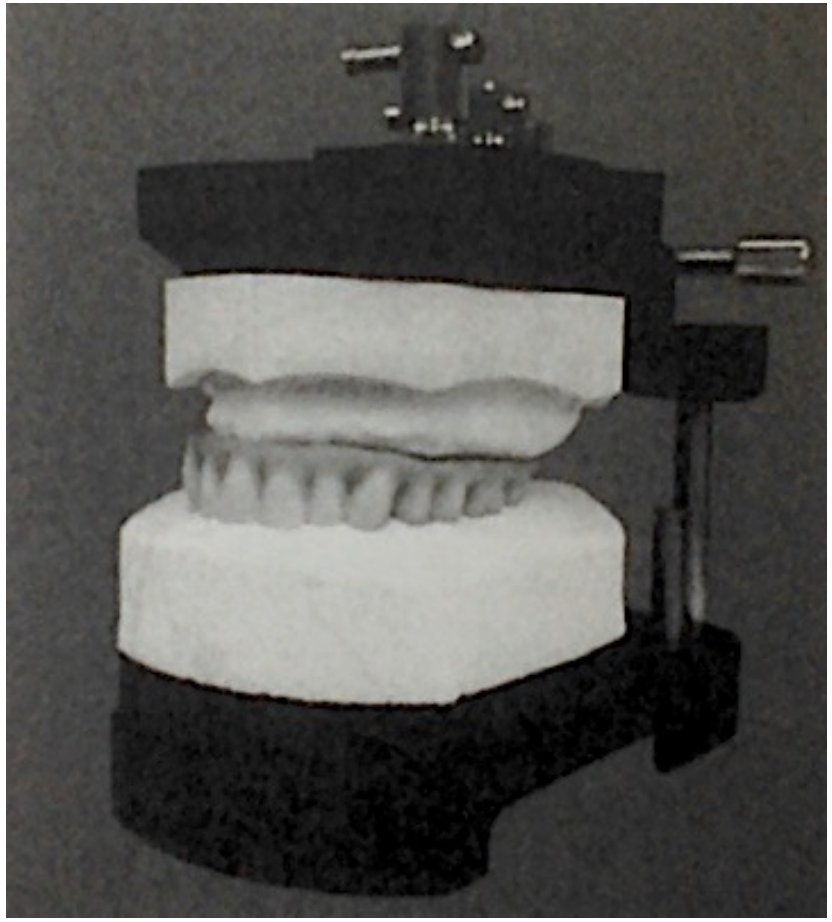
問４　リラインが必要とされるのはどれか。

- ａ　人工歯の咬耗
- ｂ　咬合高径の低下
- ｃ　義歯床の不適合
- ｄ　床翼の豊隆の不足

問５　オーバーデンチャーの目的はどれか。

- ａ　歯髄の保存
- ｂ　義歯破折の防止
- ｃ　顎堤の負担軽減
- ｄ　支台歯の清掃性向上

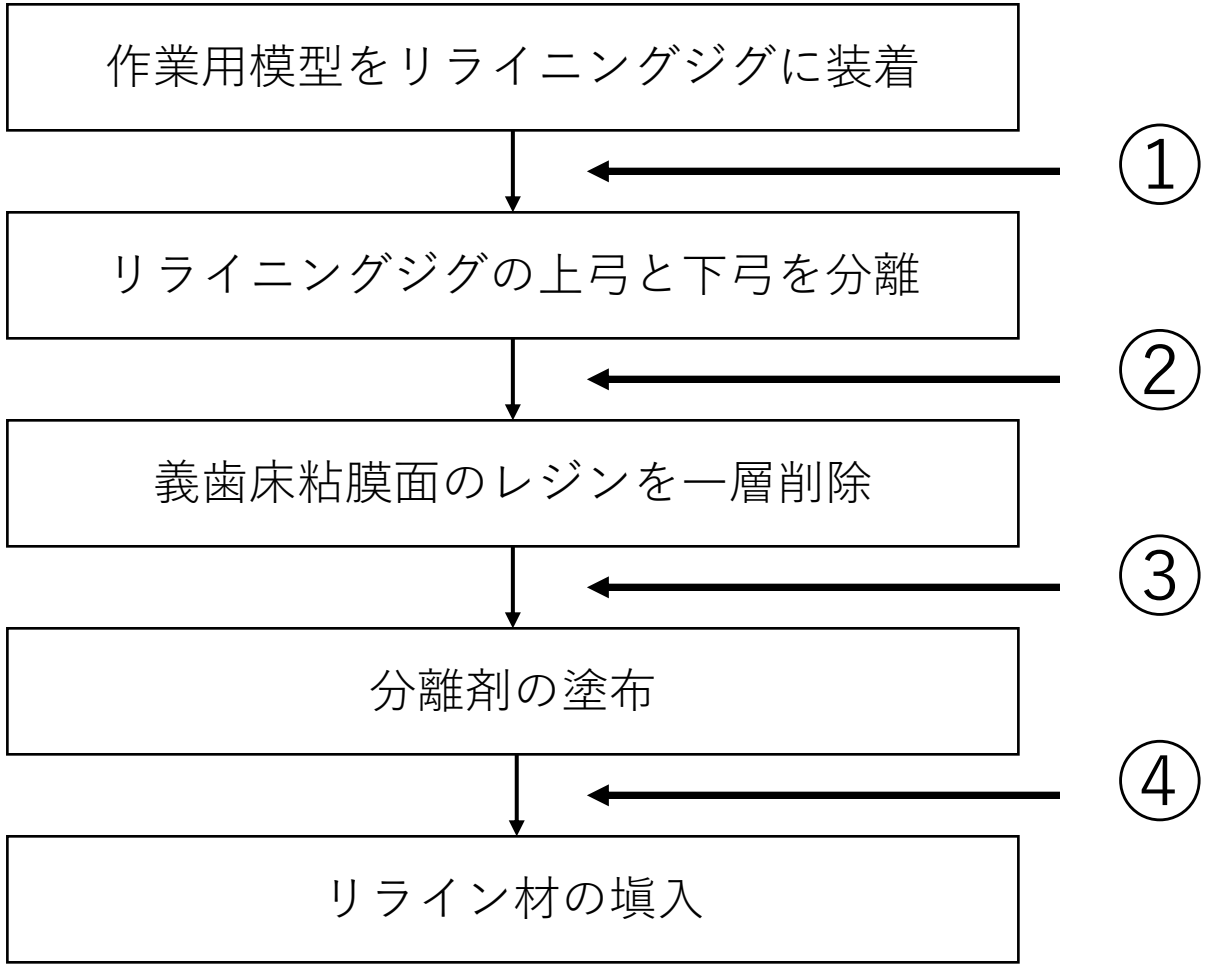
問６　全部床義歯の技工操作中の写真を示す。
この操作の目的はどれか。



- ａ　義歯床の置換
- ｂ　咬合器再装着
- ｃ　咬合平衡の付与
- ｄ　被圧変位量の補償

問７　リライニングジグを用いたリラインの技工操作を図に示す。
義歯から印象材を除去する時期はどれか。

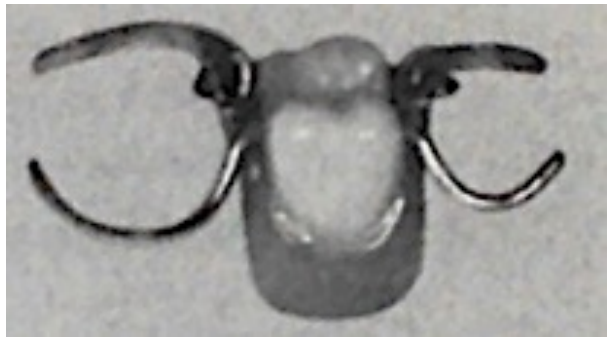
- a　①
- b　②
- c　③
- d　④



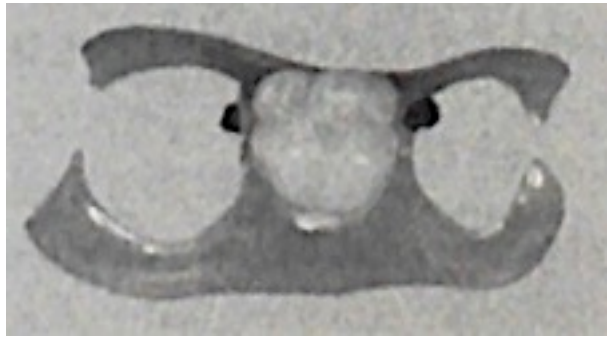
問８　２種類の部分床義歯の写真を示す。
Ａと比較したＢの特徴はどれか。

- ａ　審美性に優れる。
- ｂ　研磨が容易である。
- ｃ　修理が容易である。
- ｄ　支台歯の自浄性に優れる。

Ａ

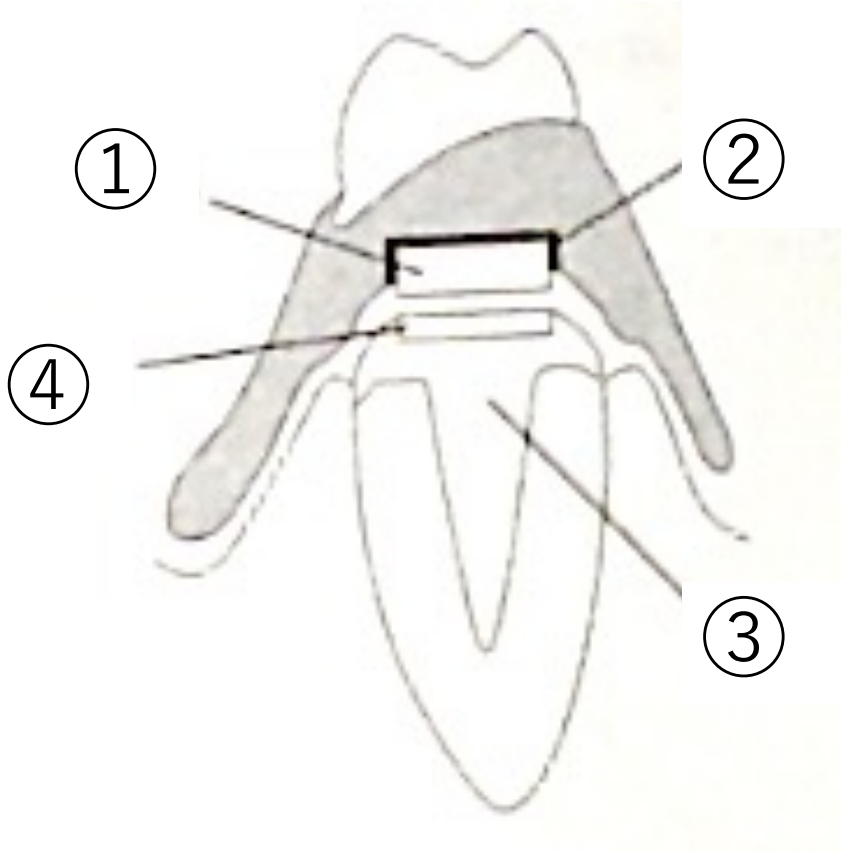


Ｂ



問９　義歯に使用した磁性アタッチメントを模式図に示す。
義歯の維持に用いる磁力を有するのはどれか。

- a　①
- b　②
- c　③
- d　④



問10　金属床義歯と比較したレジン床義歯の利点はどれか。

- a　剛性が高い
- b　修理が容易である
- c　設計の自由度が高い
- d　温度変化を生じやすい